

令和7年2月9日(日)

第5回 西楽寺講座

西楽寺遺跡の研究 ―所蔵資料と祇園祭を交えて―

寺井 崇浩(豊橋市文化財センター)

はじめに

「考古学とは過去人類の物質的遺物により、人類の過去を研究する学なり」

(濱田耕作1922『通論考古学』)

1. 西楽寺遺跡の構成要素

伽藍の痕跡(建物基礎・庭園・平坦面・道など)・石塔(墓石・地藏)・瓦・石垣など

(参考1)西楽寺縁起

- ①神亀元年(724)に行基により開かれた。
- ②寛治元年(1087)の堀川天皇期に村上源氏の源顕房により再興された。
- ③永正3年(1506)に足利義澄が田六町を寄進。
- ④武田信玄により永禄年間(1558～1570)に兵火に遭う。
- ⑤徳川家康が駿河国建徳院主の幸遍を派遣し祈願所として170石を安堵し樽木を授けた。
- ⑥豊臣秀吉の寺領安堵を受けた。
- ⑦慶長8年(1603)に徳川家康により170石が安堵された。

(参考2)西楽寺に残る考古学以外の資料

- ①日光菩薩・月光菩薩立像(平安中期)、②薬師如来坐像・阿弥陀三尊像(平安後期)、③四天王像(鎌倉時代)、④本堂(江戸中期)、⑤釈迦堂(江戸後期)、⑥本坊客殿(江戸後期)、⑦西楽寺文書

2. 西楽寺の謎

①西楽寺は神亀元年(724)に行基が開いた→行基は遠州に来ていない

- ・飯田の崇信寺3号墳や院内3号墳で畿内系の石室・蘇我氏と物部氏関連の太刀や馬具と埋葬された豪族→平戸廃寺と関係？
- ・春岡古墳群で在地系の横穴式石室・馬具・太刀と埋葬された豪族→西楽寺と関係？
- ・稲荷領家遺跡(推定周智郡衙)で豪族の子孫が働いたと考えられる(郡司(地方官))(第2図)。
→→→西楽寺を開いたのは「春岡古墳群」を築いた「豪族」の子孫？

②西楽寺縁起の信憑性→全て中世末期以降に書かれた

- ・平安時代になると遺跡数が激減。9～11世紀(平安前～後期初頭)の遺跡数は2つ程度。12世紀になると遺跡数が7つと回復する(第1表)。
- ・西楽寺縁起では1087年(11世紀末)に源顕房により再興。それ以前は衰退していたか。
- ・西楽寺縁起や仏像と周辺遺跡の動向に連動性→→→「古代」の部分の信憑性あり

③西楽寺縁起に書かれていない時期の姿は？→鎌倉時代～室町時代の姿は書かれていない

- ・西楽寺墓地で13世紀の渥美窯産小壺が出土、15～16世紀の石塔（第3・4図）。
- ・西楽寺・用福寺（橘逸勢供養塔）・積雲院（源朝長供養塔）で五輪塔三基一対。寺衆の活動か。
→→→「墓地」の形成と「寺衆」の活動

※ちなみに…江戸時代には金谷産・馬ヶ谷産瓦が西楽寺に供給。松本坊東側に「三州瓦屋」。

④西楽寺と東西地域の関係→本尊は京都と関係、江戸時代は徳川将軍と関係が深い

- ・平安時代～鎌倉時代には山茶碗が京都以東から富士川まで流通。畿内・美濃から静岡県へ石材供給。室町時代に入り14世紀になると焼津産石材の供給先の西端が袋井（正福寺）、東伊豆産の石材も流通。15世紀には森町蓮華寺・日坂産の砂岩が周辺で流通、天竜川を境にかわらけの形状変化。16世紀には瀬戸美濃窯の工人が遠江に窯を作り、瀬戸美濃製品の天竜川以東の流通量が減少。中世を通して、南伊勢系鍋・羽釜・内耳鍋の面的流通圏の東限は安倍川周辺。17世紀以降は瀬戸美濃製品の直接流通圏は天竜川まで。
- ・東西の境目は14世紀中葉以前は興津川・薩埵山～富士川、14世紀後葉～16世紀は天竜川～安倍川、17世紀以降は天竜川がメイン（第5図）。
- ・平安後期の本尊は京都の仏師、江戸時代になると江戸と関係が深くなり、住職は関東・東北出身者が占める。→→→「東西」の「境目」の変化が西楽寺に影響

3. 西楽寺と祇園祭

祇園祭とは貞観2年(869)に神泉苑で始まった官祭。明応5年(1496)には室町幕府の要請により官祭から町祭に。平安末期～室町時代までは西楽寺、戦国時代以降は山名神社で実施と考えられている。

①飯田山名神社

- ・「山名神社天王祭舞楽」の獅子頭の墨書に、西楽寺住職の「宥香」の名。
- ・天王祭舞楽は明応5年(1496)に四天王寺から伝わった。

②上山梨山名神社

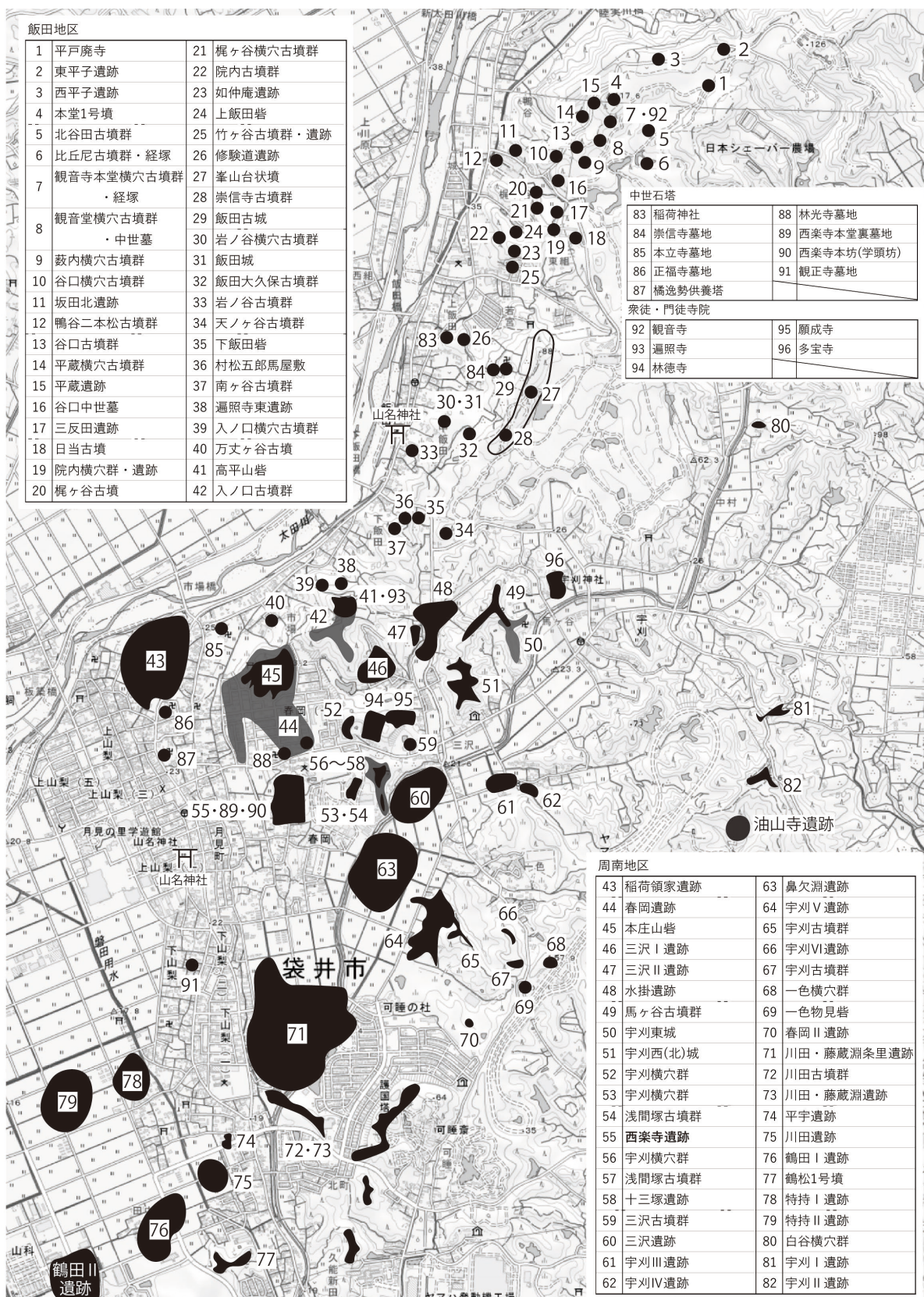
- ・貞享2年(1685)に大火が起こり上山梨村は全焼し、資料は焼失。
- ・現在の御輿「鳳輦車」は享保12年(1727)に氏子が寄進。計12面ある錫製鏡背面の銘に「田中伊賀作」。現在の京都仁和寺御用仏具店の田中伊賀仏具店か。西楽寺と仁和寺の関係。

③考古学と祇園祭

- ・12世紀の遺跡増加から西楽寺の祇園祭開祭は12世紀か。
- ・官祭から町祭になった当時は近隣産石材の石塔の増加、飯田城・本庄山砦など在地の増強。
- ・徳川 vs 今川。徳川 vs 武田の戦い。本庄山砦で長大な横堀から当時の戦乱が見える。
→→→「在地」の増強と「戦乱」の中で祭りの中心が山名神社へ移った

おわりに

西楽寺は周辺遺跡と密接な関係がある、西楽寺山全体を範囲とする遺跡である。

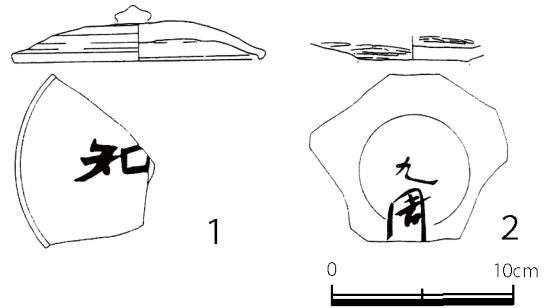


第1図 古墳時代以降の西楽寺周辺遺跡・中世石塔・関連寺院分布図

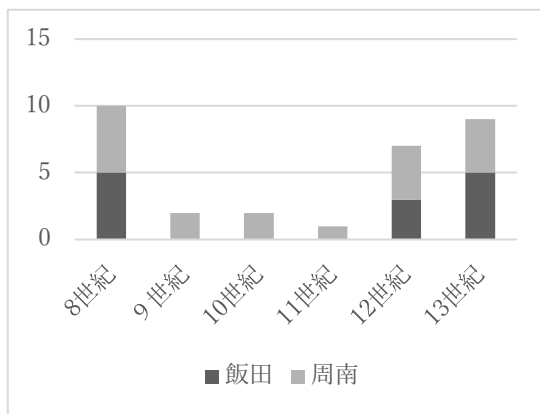
(西楽寺 1995、森教委 1996・1998、静埋文 2004、静古城 2022、どまんなか袋井 navi より作成)



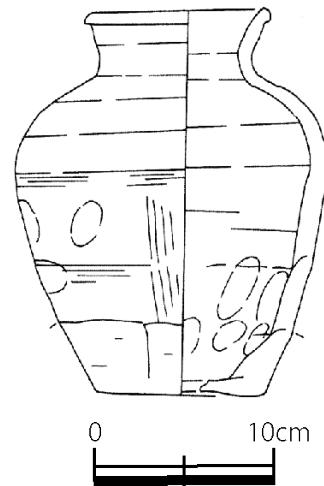
(参考) 春岡古墳群パンフレット



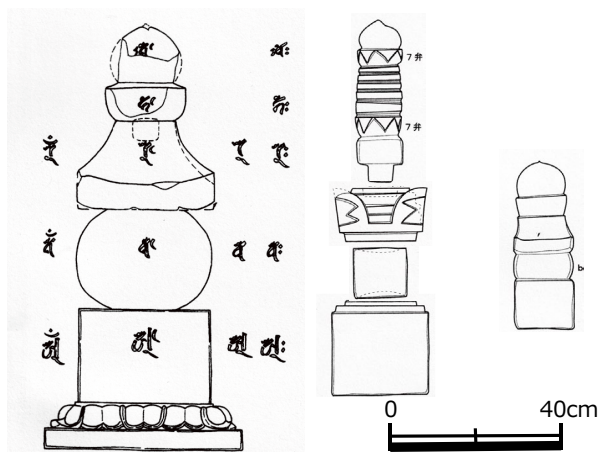
第2図 稲荷領家遺跡採取墨書土器
(松井 2003 より転載)



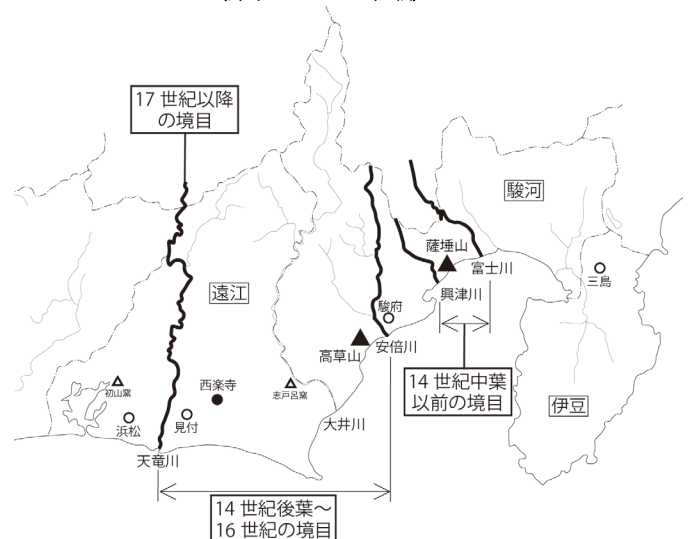
第1表 西楽寺周辺遺跡数(抜粋)



第3図 西楽寺本堂裏墓地出土壺
(鈴木 2017 より転載)



第4図 西楽寺本堂裏墓地の中世石塔
(松井・木村 2020 より抜粋)



第5図 古代から近世の静岡県内の境目

松井一明 2003 「稲荷領家遺跡群(稲荷領家遺跡・春岡遺跡)」『静岡県の古代寺院・官衙遺跡』静岡県教育委員会
(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 2004 『森町睦実の遺跡』

鈴木敏則 2017 「浜松市内で発見された中世の蔵骨器(後編)」『浜松市博物館報』第29号 浜松市博物館

松井一明・木村弘之 2020 「第2章第2節 遠江の中世石塔群」『静岡県の中近世墓 詳細報告編』静岡県教育委員会